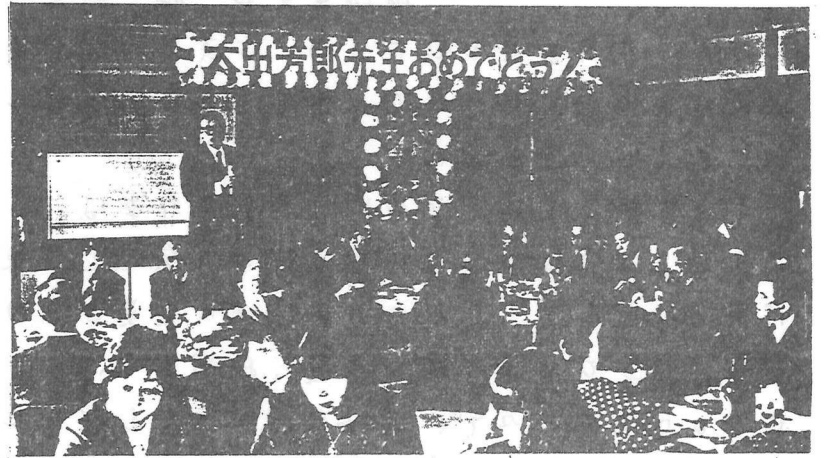


太田芳郎連盟会長の “米寿を祝う会” 盛大に開催



さる、3月8日の日曜日午後1時から3時半まで、多摩湖の「陶水亭」を会場に、私に与東村山市硬式テニス連盟の会長であり、栗村小市民テニスクラブ協議会・名誉会社とかね市体協の名誉会長ともかね、併せて市体協の創立者であり、テニス界では日本国内はもとろん、国際的にもその、実績と人柄で、より広く知られている太田芳郎先生の“米寿を祝う会”が当連盟の主催で文字通り盛大に開催されました。

当日は柏崎テニス協会から鎌倉会長さんをはじめ6名の方、当市からは現市長の市川さん、元市長の熊木さん、政沼教育委員長、田口体育課長、元体育課長の小町征弘さんや同施設係長であった田口正夫さん、庭連協からはおろいサの房前会長さんには元の私に与の仲間であり今では多摩市硬式連の会長の任にある若林さん、当連盟からは、森清吉副会長をはじめとした役員各位、友好団体である軟式庭球連からは徳島会長をはじめ8名の仲間たちのご出席をいただき各界から総勢65名の皆さんの参加をいただきお祝いの会をもち



ことかできました。当日御参加いただいた皆さんには改めてお礼申し上げます。また、当日までの会場づくりをはじめとした諸準備に御協力いただいた市民テニスクラブの皆さんにも、改めて感謝申し上げます。

最後に太田先生が述べられた「これからは一日一日を大切にし、与えられた余生を金うしたいと思っています」との言葉に期待を申し上げ、さらに今後共一緒に頑張って参りたいと思っております。

〈記・柳〉

テ・ニ・ス・と・わ・た・し

私は豆が好きである、小豆、うずら豆、そら豆、いんげん豆、納豆、特に枝豆はビールのつまみとしては最高である。このように豆好きの私にも、嫌いな豆が一つだけある、手や足に出来る豆がそれである。私は豆が出来易い体質なのかすぐに豆が出来、以前山登りを趣味としていた時期があり会社の夏休みなどにはテントをかついで何日か山に入ったが、そうした時、必ず足の裏に豆を作る、したがって下山の時はいつも足をひきずっての帰還となる。テニスを始めてからは足に豆が出来るとは少なくなったが、手に豆が出来ようになった。一日2、3時間テニスをするぶんには何とも無いのであるが、合宿などで一日中コートに立つと、必ず手のあちこちに豆が出来、合宿の終のころには手に出来た豆が全て潰れてしまい、痛くてラケットを握れなくなり左手で荷物を持ち帰還することとなる。豆の出来る原因は手の握力が弱くグリップが手の中で回ってしまうからである。豆の料理方についてもいろいろ試みたが、結局、豆が出来たらラケットを握らないこと以外、最良の方法が無く合宿中とあってはそうもいかないもので、つい豆を潰してしまい泣く泣くラケットを振るはめとなる。ところが近年、ミッドサイズのラケットが使われるようになり、このラケットは従来のレギュラーサイズのラケットと比べ、その大きさと手の中のグリップが回るのをかなり抑えることが出来。この手のラケットの出現により私の手は長時間ラケットを持ち続けても豆が出来なくなり、私は豆の中でただ一つ嫌いな豆とサヨナラすることが出来た。

Happy End.